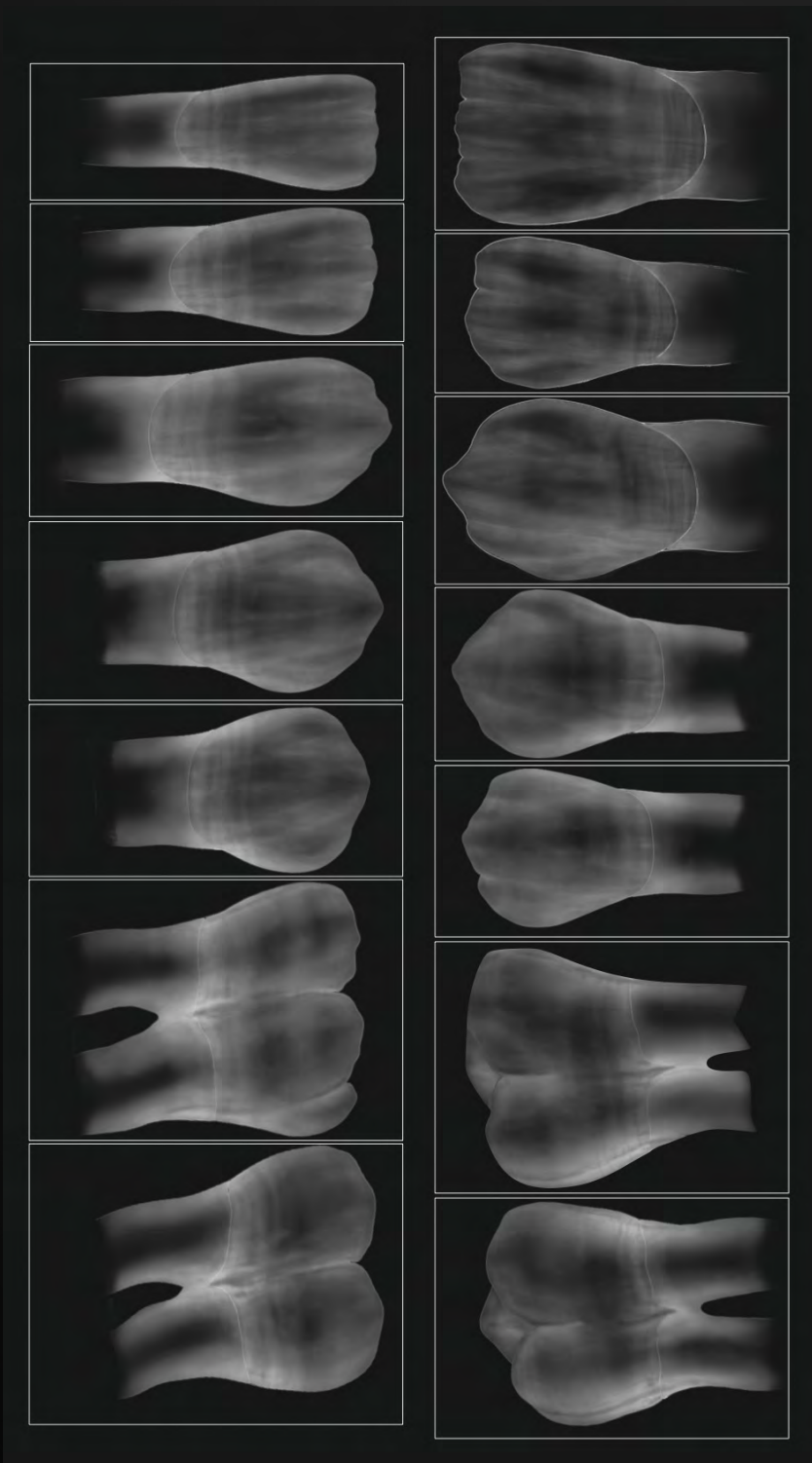


The Ultimate Guide to Tooth Morphology 1 **Basic**

天然歯の形態学 1

脇田太裕 著

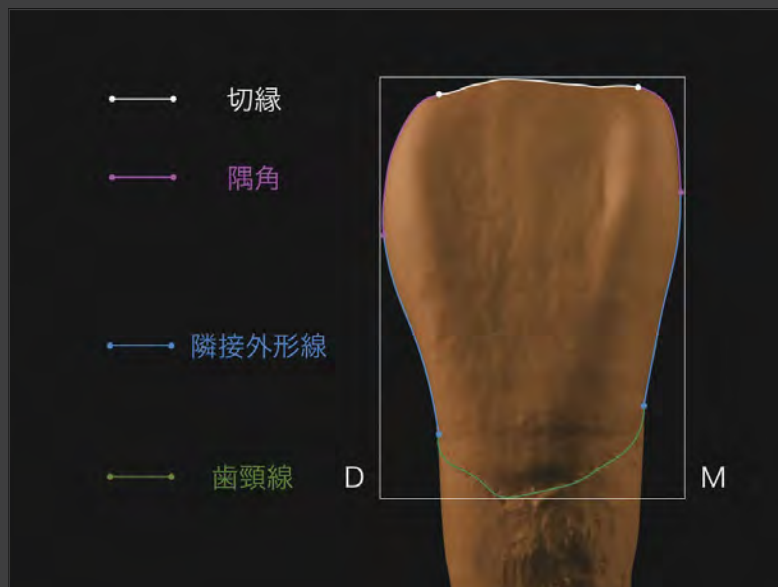


1-1-1 唇側面観の外形

歯の形態にとって上顎中切歯はまさに顔であり、すべての始まりでもある。後続する歯も、中切歯の形態から形態の特徴を考えると、言っても過言ではない。それは形態の特徴が最も顕著に表れているからだ。外形では、大きさ、3つの形態的特徴、バランス等すべてにおいて中切歯を基準に考えることが多い。表面的特徴では隆線や表面性状等を後続歯へと反映させていく。ここでは、まず基本的な形態の特徴と、各方向から見るべきポイントやルールの特徴を紹介する。



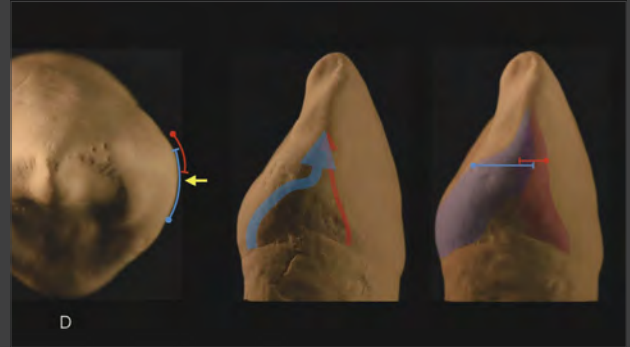
01 | 本項の解説に用いる上顎中切歯のサンプル模型



02 | 切縁、隅角、隣接外形線、歯頸線の4つの線（外形線）に分けて形態を読み取る。そして、その各外形線の変化点の近遠心的な違い（落差）を読み取る



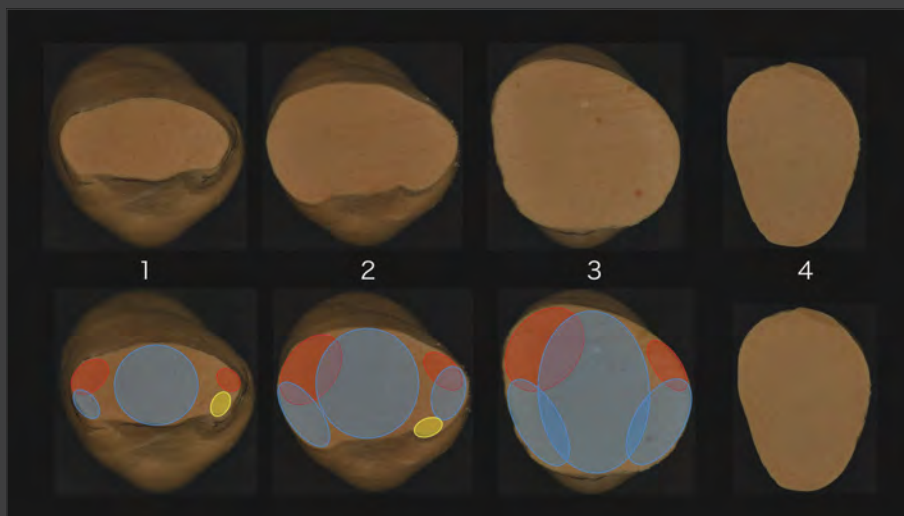
59 | 近心面. 唇舌隆線は隅角（最大豊隆部付近）で重なり合っている（左図）。唇舌隆線に大きさに差は小さい。切縁観では唇舌隆線の重なっているエリアに丸みがある（右図）



60 | 遠心面. 唇舌隆線は最大豊隆部付近で少し重なり（右図）、最大豊隆部は舌側隆線でできている（左図の黄矢印）



61 | 歯を輪切りにして、断面から隆線をイメージする。(1)～(4)は62の断面位置に対応する



62 | 犬歯は中央隆線の発達が著しい。(2)は近遠心隆線に大きな落差が生まれ、近心の唇舌の厚みと遠心との差が大きい。歯頸部付近(3)では唇側の近心と中央の隆線が重なり合い、遠心はほとんど重ならない。黄色のエリアは舌側の副隆線である

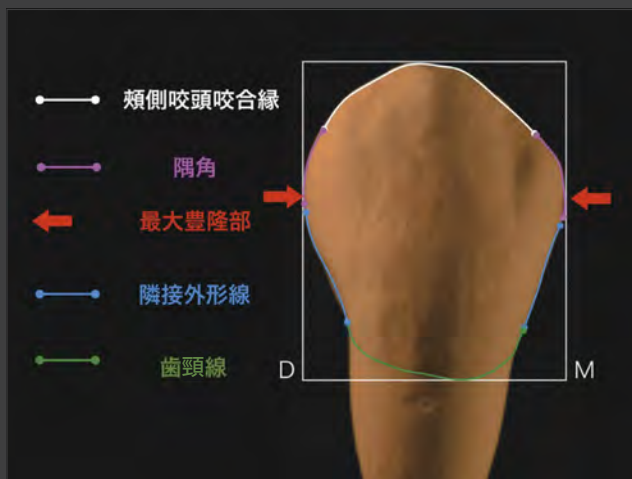
1-7-1 上顎第一小白歯の外形

上顎第一小白歯は、犬歯と隣接し頬側と舌側の2咬頭になる歯である。近心の形態が犬歯の遠心とスムーズな流れになるように形態が変化し、近心の最大豊隆部の位置（辺縁隆線）が低い



01 | 本項の解説に用いる上顎第一小白歯のサンプル模型

1-7-2 頬側面観の外形線

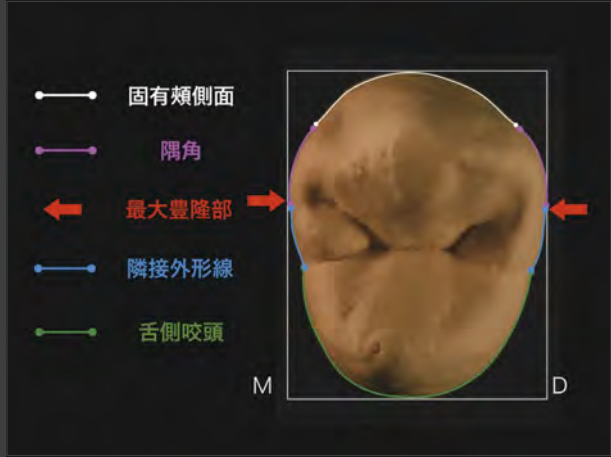


02 | 頬側面観の外形線では咬頭頂から頬側咬頭咬合縁（白線）、隅角（紫線）、最大豊隆部（赤矢印）、隣接外形線（青線）、歯頸線（緑線）に分けて特徴を見ていきたい



03 | 頬側咬頭の外形線では、咬頭頂はほぼ中央部や、やや遠心よりに存在することがある（黄矢印）。咬頭頂から近遠心咬合縁は近心が長く、遠心が短い（白線）。形は近心が直線的で、遠心は副隆線の存在なので凸になりやすい（赤線）

1-7-5 咬合面観の外形線



27 | 臼歯咬合面観では、外形線と固有咬合面の2つの外形線として捉える必要がある。前歯唇側面観の外形と稜線の関係も同様と言えるので、咬合面観では形態を捉える場合に前歯と同様に外形線と固有咬合縁を分けて見ることが重要である。ここではまず外形線を見ていく



28 | 頬側中央隆線の厚みが大きくなり、近遠心の形態に落差が目立つ(黄矢印)。移行面に近遠心斜面ができ始め、屋根のような形になり、遠心斜面が長くなりやすい(白破線)



29 | 近心が鋭角で、遠心が鈍角である(紫線)。隅角の位置は、近心では遠心よりも舌側にあることが多い(黄矢印)

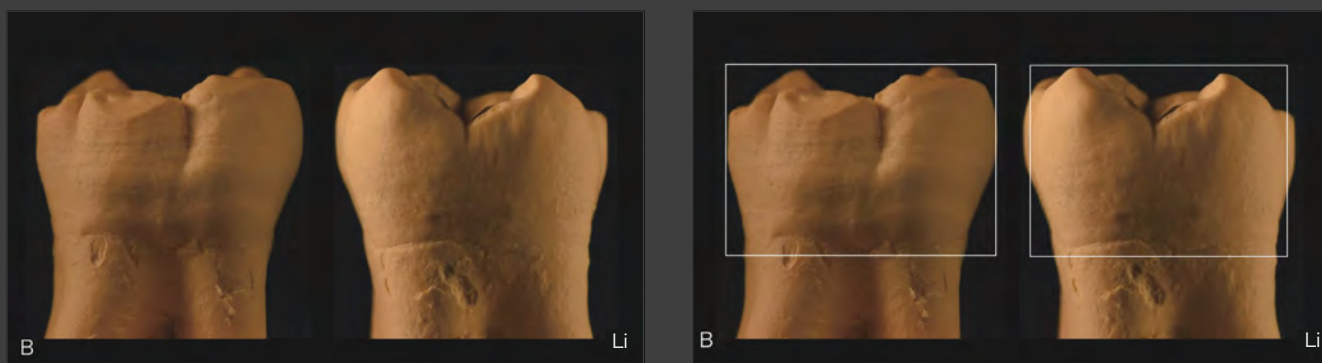
1-13-1 下顎第一大臼歯の外形

臼歯の形態には2つの機能があり、咬合（咀嚼）と清掃性（食物の流れ）が重要になる。咬合に関しては様々な考えがあるが、天然歯形態は長い進化の過程を踏んで現在に至った形態であるものの完成されたものではなく、千差万別である。ただ、その中に答えがあることも事実である。さらに軸面形態については清掃性が重要で、清掃性の低いものは咬合の不良なものと同様に、歯の破折や動揺等による欠損につながるので大変重要になる。臼歯はどうしても咬合面形態に意識が集中して軸面形態を見失いやすいので、咬合に関しては様々な考え方によって患者単位で対応をしていただくこととし、ここでは天然歯の軸面形態を今一度観察していきたい

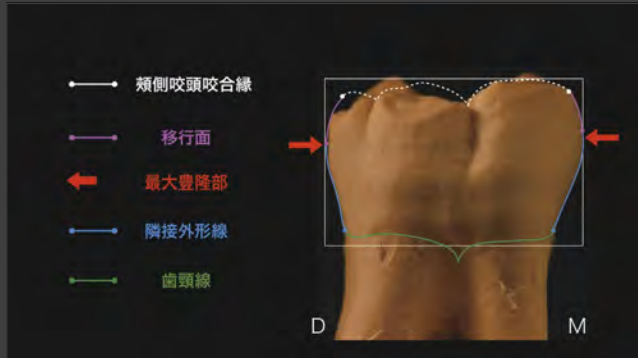


01 | 本項の解説に用いる下顎第一大臼歯のサンプル模型

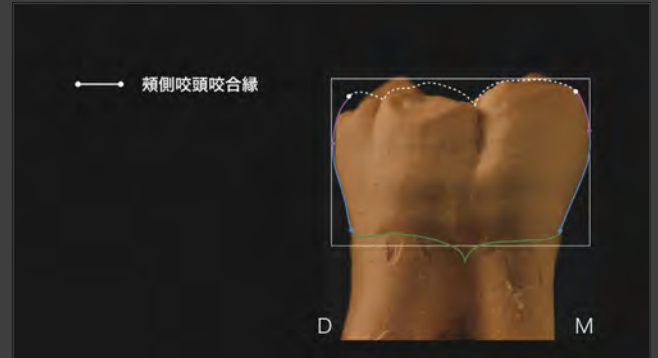
1-13-2 頬側面観の外形線



02, 03 | 左は頬側面観、右は舌側面観。頬側咬頭は3咬頭で機能咬頭となるので舌側咬頭と比べて歯冠幅が広い。歯頸部は、遠心咬頭が頬舌咬頭のほぼ中央付近にあるので、見えている状態だけでは近遠心径は頬側と舌側ではあまり差がないが、舌側は2咬頭なので舌側面観は少し小さくなる (03)



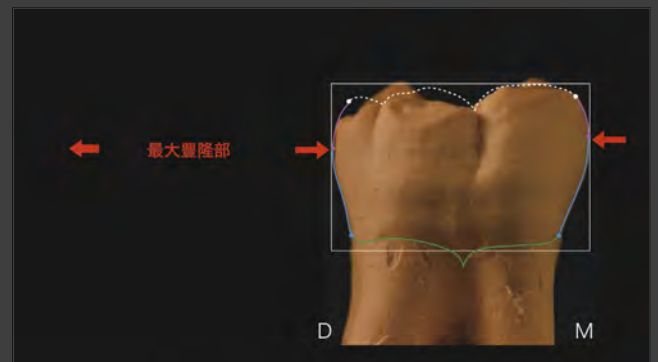
04 | 頬側面観の外形線では、咬頭頂から頬側咬頭咬合線（白線）、隅角（紫線）、最大豊隆部（赤矢印）、隣接外形線（青線）、歯頸線（緑線）に分けて特徴を見ていきたい。ここでも頬側咬頭が摩耗せずに残っている抜去歯を入手できなかったことをお許しいただきたい



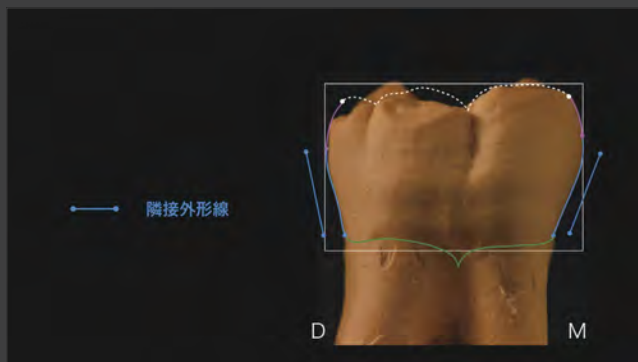
05 | 頬側は3咬頭あり、近心と中央の2咬頭は高さ・大きさに差がなく、歯によって異なる



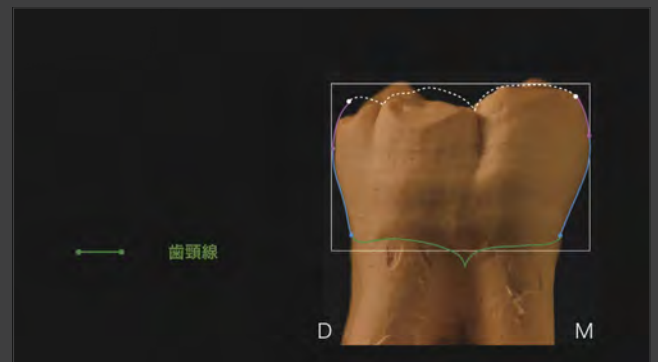
06 | 白歯の近遠心移行面は（紫線）以外に軽視されがちだが、しっかりとした移行面があり、近心よりも遠心のほうが幅を持つ



07 | 最大豊隆部はわずかに近心が高く遠心が低い、配列を考えると高さが同じであったり逆であるように見えたりすることもある



08 | 隣接外形線も遠心咬頭の存在により、本来のルールとは逆に遠心が垂直的で、近心が遠心よりも傾斜している



09 | 歯頸線は近遠心で同じか、近心よりも遠心のほうが高い